福島県PTA連合会会報
第106号_H30.07.13

福島県PTA連合会

PTA ふくしま 第106号

県連P活動スローガン　子と親とが　共に育つ　PTA 活動を

編集：調査広報委員会　印刷：泉印刷所

●県P連会長あいさつ

～今を生き抜く 子どもたちを育てよう～

福島県ＰＴＡ連合会
会長　誉　田　憲　孝

日頃より、福島県ＰＴＡ連合会の活動にご理解とご協力を賜わり心より感謝申し上げます。

この度、平成三十年度会長に就任いたしました。

社会の急速な情報化による子どもたちの安全安心の問題やいじめ問題。さらには虐待、貧困といった子どもたちの生活環境における対応の難しさはこれまでにない状況となっており、学校や地域、行政が一体となって子どもたちの健やかな成長を支援していかねばなりません。

子どもたちがたくましく、力強く生きるためにはコミュニケーション能力の醸成が必要です。保護者と教職員が信頼関係を築きながら、地域全体で子どもたちと関わる環境づくりを構築していくことが重要であり、そのためにも常に私たち大人が学び、行動していくことが必要不可欠です。

子どもに寄り添い、時には共に学び合う姿勢で子どもに接していくような「共育」や、子どもたちをサポートしていくための土台となる「親力」をしっかりと養うために会員同士が切磋琢磨し、支えあい、学んでいくことが求められます。

子どものために私たちが何かしてあげたい心は一つです。

今を生きる、そしてこれからの困難な時代を生きる子どもたちのために、今しかできない活動や今だからこそすべき活動に全力で取り組んで参りましょう。

もくじ

会長あいさつ・１年間の歩み……Ｐ１
新役員一覧・旧役員代表あいさつ……Ｐ２
30年度行事予定……Ｐ２
PTA広報紙コンクール……Ｐ３
国際交流・国内研修報告……Ｐ４
福島県PTA研究大会喜多方大会の概要……Ｐ４
子育てに生かす……Ｐ５
事務局からのお知らせ……Ｐ６

紹介 県Ｐ連 1年間の歩み
～こんな活動をしています～

2017年６月19日　第１回理事会

2017年９月15日
郡市Ｐ母親代表者懇談会

2017年11月４日
水俣との交流事業

福島県と水俣市の生徒とPTAが交流しています。

11月５日

第41回子どもの防災習字・ポスター展

2017年10月15日
福島県PTA研究大会　いわき大会

今年度は喜多方で行われます

平成30年度 福島県PTA連合会行事予定

４月20日(金)	県Ｐ広報紙コンクール
６月５日(火)	評議員会(総会)
６月18日(月)	小中懇談会
	理事会・常置委員会
７月	会報106号発行
	県Ｐ要覧発行
８月24日(金)～25日(土)	
	日Ｐ全国研究大会新潟大会
９月15日(土)～16日(日)	
	日Ｐ東北ブロック研究大会秋田大会
９月21日(金)	郡市Ｐ母親代表者懇談会
10月13日(土)	理事会・常置委員会
10月14日(日)	県Ｐ研究大会喜多方大会
11月	県教育長との懇談・要望
11月21日(水)	日Ｐ表彰式(ホテルニューオータニ)
12月	会報107号発行
２月16日(土)～３月３日(日)	
	習字・ポスター展
２月	会報108号発行

退任にあたり願うこと

前福島県ＰＴＡ連合会会長　小林利明

二年間、福島県ＰＴＡ連合会の会長を務めさせていただきました小林利明です。会員の皆様には長きにわたりご支援とご協力を賜りましたことに、心より感謝と御礼を申し上げます。本当にお世話になりありがとうございました。

私たちＰＴＡは社会教育団体です。子どもたちの健全育成に関して、時代とともに変化する社会環境に対応し、適切な措置を施すとともに、子育てに必要なしつけや知識、家庭教育のあり方などを親として学んでいく必要があると思っています。その上で子どもに向き合い、良い環境作りを実践していただきたいと思います。それこそがすべての教育の出発点ではないのでしょうか？子どもたちの未来が幸多きことを願います。

水俣交流事業より（役員・スタッフ）

平成30年度 福島県ＰＴＡ連合会役員一覧

▼会長
誉田　憲孝（福島市Ｐ連・会長）

▼副会長
齋藤　徹（安達地方Ｐ連・会長）
〃　増子　国安（西白河Ｐ連・会長）
〃　成澤　勝蔵（会津若松市父母と教師の会・会長）
〃　小林　裕子（耶麻地区Ｐ連・会長）
〃　箱崎　洋一（いわき市Ｐ連・会長）
〃　古関　明善（県小学校長会会長）
〃　伊藤　隆幸（県中学校長会会長）

▼監事
〃　有我　昌志（岩瀬地区Ｐ連・会長）
〃　船木　竜也（両沼地区Ｐ連・会長）
〃　渡邉　国弘（相馬地方Ｐ連・会長）

▼ＤＰ懇談会代表
〃　菅野敬一郎（伊達地区Ｐ連・会長）
〃　星　昌友（南会津郡Ｐ連・会長）

▼母親代表
〃　大泉きよみ（母親代表）
〃　齋藤　裕子（県北・福島）
〃　松谷恵理子（県中南・岩瀬）
〃　渡邊みゆき（会津・会津若松）
〃　大泉きよみ（浜・いわき）

▼理事
〃　齋藤　重徳（福島市Ｐ連・副会長）
〃　佐藤　克宏（川俣町Ｐ連・代表）
〃　平塚　康晴（郡山市Ｐ連・会長）
〃　近内　寛典（石川郡Ｐ連・会長）
〃　今泉　信一（田村地方Ｐ連・会長）
〃　原　宗光（東白川郡Ｐ連・会長）
〃　島田　勉（北会津地区Ｐ連・会長）
〃　松野　光伸（県北ブロック代表）
〃　佐藤　安喜（県中ブロック代表）
〃　大杉　和規（県南ブロック代表）
〃　田代　新一（会津ブロック代表）
〃　高橋　弘之（南会津ブロック代表）
〃　馬場　隆一（相双ブロック代表）
〃　丹　孝平（いわきブロック代表）

ＰＴＡ広報紙・学校新聞コンクール　～おめでとうございます～

福島市立大久保小学校「大久保」

●こんな視点で作成しています

福島市立大久保小学校
教養広報委員長　阿曽健一

この度、最優秀賞をいただき、大変光栄に思っております。広報紙作成にご協力いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。

広報紙作成にあたっては、全体的なレイアウトのバランスや躍動感あふれる写真選びを心がけています。

本校は全校生徒四十二名の小規模校ですが、地域の皆様に支えられた教育環境にあり、大変ありがたく感じております。

今後も地域の皆様をはじめ、子どもたちに関わってくださる皆様への感謝の気持ちをこめて、「見やすく楽しい広報紙」作りに励んで参りたいと思います。

福島市立飯野中学校「こもれび」

●こんな視点で作成しています

福島市立飯野中学校
広報委員長　松本　敬

この度のコンクールにおきまして、本校のＰＴＡ広報紙「こもれび」が三年連続となる最優秀賞を頂きましたこと、広報委員全員で一丸となって取り組んだ結果に喜びを感じています。

広報紙を作成する上で常に心がけていることは、記事を読む会員の皆さまが、興味を持って読みたくなる広報紙を作ることです。子どもたちが学校生活をとても楽しんでいることが伝わるようなレイアウト、会員皆さまの声を反映するアンケート調査など、作成する側、読む側が共に楽しくなる広報紙作りを常に目指しています。

今後も会員の皆さまに愛され、さらに楽しいＰＴＡ広報紙を作成してまいりたいと思っています。

第53回県小中学校ＰＴＡ広報紙コンクール　晴れの受賞校

第53回県小中学校ＰＴＡ広報紙コンクールの審査会は四月二十日、福島市の福島民友新聞社で開かれた。

県内の小中学校六十六校から応募があった。審査の結果は次の通り。

◇最優秀賞
「大久保」（大久保小）
「こもれび」（飯野中）

◇優秀賞
「みくわば」（渡利中）
「薫だより」（薫小）
「あげつち」（平第一小）
「紅　梅」（小高区４小）

◇入　選
「第二学園」（福島第二小）
「六　華」（三河台小）
「さかみち」（福島第四中）
「はちのす」（白河第二小）
「たいせい」（大成小）
「絆」（郡山ザベリオ学園）
「はばたき」（一箕小）
「ほおの木」（喜多方第二小）
「きたあいづ」（北会津中）
「ひらくぼ」（平第四小）

国際交流・国内研修報告　～渡嘉敷島に行ってきました～

会津若松市立第六中学校
三年　棚　木　はる香

私は、この国内研修in渡嘉敷島で、人の関わり方とコミュニケーションの大切さについて深く考えさせられました。日本国内で唯一の地上戦が行われた沖縄。渡嘉敷島でも激しい戦いが行われたそうです。中でも集団自決跡地は特に心に残っています。急な山道は木々でいっぱいで、歩くことさえ大変だったのに、当時戦争に関わった人々は本当に大変だったのだろうと思いました。戦争の悲惨さを肌で感じました。

班活動で最も団結したのが、野外炊飯でした。普段から家で料理していた私は、担当の仕事を終えて他の人の手伝いをすることができました。潮風香る青い海を前に、自分たちが作ったカレーは、一日目の班員の緊張をほぐし、親睦を深めてくれました。

一番の思い出は、一面に広がるサンゴ礁と色鮮やかな小魚に美しさを感じたシュノーケリングです。沖縄でしか楽しむことができない、あの青く透明な海の色を今でもはっきりと覚えています。

この研修を通して感じていたのは、一人ではなかったということです。みんなと語り合いました。リーダーは、最後の夜に涙を流していました。偶然巡り合った私たちですが、コミュニケーションを通してお互いを理解し、強い絆で結ばれました。本当に貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

柳津町立会津柳津学園中学校
三年　佐　藤　謙　多

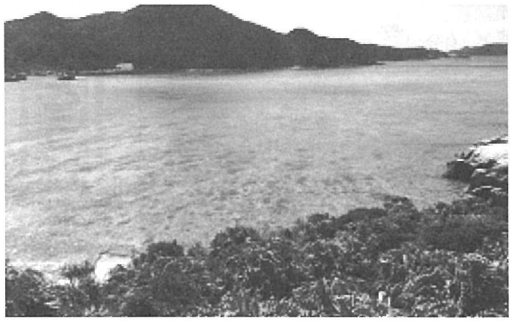
僕は、この研修で様々なことを学びました。渡嘉敷の美しい自然や島独自の文化等について、島民の方々から話を聞くことができました。

平和学習では太平洋戦争末期の沖縄について学びました。この渡嘉敷で地上戦が行われ、たくさんの人々が集団自決をせまられたことを知り、その集団自決から逃れて生き残った家族からも話を聞くことができました。僕は、戦争の悲惨さを改めて実感し、そして二度と「戦争」というものを起こしてはならないと強く思いました。

この研修を通して、美しく豊かな自然を守り続けていくことや、戦争から学んだ教訓を次の世代へと語り続けていくことの大切さを学びました。

また、他県の生徒とも打ち解け合い、最終日には涙を流すほど仲良くなることができました。

僕にとってこの研修は、とても思い出に残る良いものになったと思います。この貴重な経験を活かし、自分の目標に向かって精一杯がんばっていきたいです。



第66回福島県PTA研究大会　喜多方大会の概要

大　会　主　題

たくましく生きる　次代を担う子どもたちの喜び多い方(未来)を創ろう
～今の時代だからこそ　人と人との絆を信じて～

ふるって
ご参加下さい

1．期　　日　平成30年10月14日(日)
2．会　　場　〈全体会〉喜多方プラザ
〈分科会〉喜多方プラザ　押切川公園体育館　喜多方市立第一小学校
喜多方市立第二小学校　喜多方市立第一中学校　喜多方市立第三中学校
3．日　　程

9:00	9:30	11:30	13:00	14:00	15:30	15:45
受付	分科会	昼食 移動	全体会	記念講演	閉会	

4．記念講演　講師　田　澤　雄　作 氏（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター）
5．分 科 会　1　組織運営　　2　研修活動　　3　家庭教育
4　健全教育　　5　特別支援教育

子育てに生かす

「褒めることは大事だとわかっていても、どう褒めたらいいのかがよくわからないんです。」とか「怒らないようにしようと思っても、ついつい怒ってしまうんです。」などという声がよく聞かれます。今回は、①子どもの褒め方②アンガーマネジメントについてご紹介いたします。

子どもの褒め方

私たち大人であっても、褒められると嬉しいものですし、やる気も出ます。子どもたちはなおさらです。でも「褒めるのって恥ずかしいんです。」とおっしゃる保護者もたくさんいます。

恥ずかしいのは、とってつけたような褒め方をしたり褒めなくてもいいことを褒めようとしたりするからなのです。

例①

「今日も学校に行ってきたね。頑張ったね。」と言って褒めていいのは、朝、当校をぐずっていたお子さんが元気に学校から帰宅した時なのです。それを、毎日元気に学校に行っているお子さんに言うから変なのです。

例②

お子さんが「今日はテストで八十点取ったよ。」と言った時に、「よくやったね。すごいね。」と褒めるのはいいのですが、先日のテストで九十点取った時以上の褒め方をするから変なのです。「八十点だったの？この間のテストでは九十点だったけど、でも八十点だってお母さんはすごいと思うよ。」と褒めればいいのです。

そして、褒める時には具体的な事実を褒めるのです。見てもいないし聞いてもいないのに、「偉い。」とか「よく頑張った。」などと言ってはいけません。子どもはわかってしまうのです。

お子さんの言動やお子さんからの話の中で、保護者の「あっ、いいね。」と感じた時に、そのことを素直に、そしてどうして「いいね」と感じたのかをお子さんがわかるように伝えてあげることが「褒める」ということだとも言えるのです。

アンガーマネジメント

「どうして今なの？」「なんでダメと言ったことをまたやるの？」「しておきなさいと言っておいたのに、どうしてやらなかったの？」などのように、ついつい感情的になって子どもに怒りをぶつけ、後から「なぜあれほど怒ったんだろう。」と後悔することがありませんか。

子どもにとっても、なぜ怒られたのかが理解できず、ただ傷ついてしまうことにもなりかねません。アンガーマネジメントとは、このような時の怒り（アンガー）を上手に管理・コントロール（マネジメント）することです。

ポイント①
自分の信念や価値観を知る

怒りの感情は、自分の正しいと信じている信念や価値観に反した行動や言動に接した時に生まれるそうです。しかし、その信念や価値観の基準は人によって異なります。ですから、そのハードルを下げたり相手の視点に立ったりすることで怒りを回避できます。つまり子どもはわからなくて当たり前との認識に立つことです。

ポイント②
原因追及よりも解決を思考する

原因を知ることはもちろん大切ですが、それ以上にトラブルやストレスのかかることが起きた時に「□□するにはどうしたらいいのだろうか？」と解決志向の質問を自分にするようにするのです。そして、そのことをお子さんと一緒に考えてみることも大切です。

ポイント③
怒りが出た時は六秒待つ

感情の法則のひとつに、感情は時間がたてば収まると言う至極単純なものがあります。爆発的な怒りも、六秒待つだけでもかなり萎むと言われています。怒りのピークが過ぎてしまえば、客観的に上手にお子さんに伝えることができるはずです。

ポイント④
叱る時は自己肯定感を高めるキーワードを入れる

子どもがおかしいことをしたら叱るのは大人の役目です。ただし、感情的になってその子の存在を否定するような言葉を絶対使ってはいけません。ですから、叱る時には肯定的なワードを入れましょう。例えば、「あなたらしくないと思うから言うのよ。」とか「あなたならできると思うから言うのよ。」などです。

ポイント⑤
叱る時の基準を明確にする

毎回怒る基準が違うと、子どもはどうすればよいのかがわからなくなってしまいます。「この間は『夕食の前までに宿題を片付けておきなさい』と言われたのに、今日は『帰ってきたならすぐに片付けなさい』いったいどっち？」子どもはどちらを選べばいいのかわからなくなり、また叱られることにつながるかもしれません。

自分の感情のはけ口としての「怒る」ではなく、どうすればよいのかを注意する「叱る」でありたいものです。

（参考）一般社団法人アンガーマネジメント協会「アンガーマネジメントで子育て上手に」より

安全互助会から

常日頃より、福島県PTA安全互助会に対し、ご理解とご協力をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。

万が一、事故が発生したら

①学校に連絡してください。

【学童のケガ】

学校の管理下外での、急激かつ偶然な、外来の事故によるけがを補償します。

※入院、通院の場合、治療期間が七日以上の場合に対象（事故日から治療終了まで七日以上。治療回数ではない）

※低温火傷、腱鞘炎、疲労骨折などは、急激かつ偶然な外来の事故には該当しないため対象外

※学校管理下の登下校中（自宅より校門前まで）、学校休業中の部活動でのケガは補償対象

【PTA会員のけが】

PTA会員（含む学童）が、PTA主催・共催行事に参加している時の急激かつ偶然な外来の事故によるケガを補償します。

※入院、通院の場合、治療期間が一日から対象

※PTA行事の資料、計画書（事故日が記載されたもの）を添付のこと

・PTA奉仕作業中のケガ

・PTA球技大会の練習中のケガ

・PTA行事に参加するための往復途上のケガ　など

②保険金の請求は面倒がらずに

医療費の無料化が進み、市町村によって違いはあるものの窓口での支払いの必要がなくなってきています。しかし、本制度は、あくまで保険制度で、医療費とは別に支払われるものなので、面倒がらずに請求手続きをしてください。

③賠償事故の不明な点は問い合わせを

学童、PTA会員の賠償事故の補償については、いろいろなケースがありますので、お問い合わせください。

※・自転車運転中、停車中の車にぶつかってキズをつけた。

・学校の休み時間中に友達とふざけていて教室のガラスを割った。（学校側の管理に問題がない場合）

・PTAソフトボール大会中、打球が校舎の窓ガラスを割った　など

④事故報告について

○傷害事故、賠償事故の報告については、ケガをした日・事故が発生した日が基準日となります。

○「事故報告書」の住所や氏名の「フリガナ」を必ずご記入ください。

⑤他の保険に加入している場合

○傷害事故については、加入している保険会社からそれぞれに保険金が支払われますので、本会にも忘れず請求してください。

○賠償事故については、他の賠償責任保険に加入している場合は、各保険で損害賠償を按分して支払うことになります。

したがって、賠償事故については、他の賠償責任保険契約の有無についての確認をお願いしています。

編集後記

去る六月十八日に、第二十六回小・中学校PTA懇談会を開催しました。震災後のPTAの現状やスマホ、SNS等についての課題等について熱心に協議をして頂きました。それぞれの方が、意見を出し合い、各地や各学校での取り組み・様子等を話され貴重な情報交換の場となっていました。各地区から集まった方々で小グループを形成し、自由に話し合いながら研修を深めていく、そして得た情報を持ち帰り、今後の活動に生かしていく。

今年度も県Pでは、九月の母親代表者懇談会、そして、十月の県P研究大会喜多方大会と研修の機会を設けております。また、八月には、日P研究大会新潟大会、九月には東北ブロック研究大会秋田大会もあります。各会員の皆さまの積極的な参加を期待いたします。よろしくお願いいたします。

http://www.fukushimaken-pta.jp
※年間三回発行される「PTAふくしま」もホームページで見ることができます。

共栄火災

夢を、未来を、
ずっと近くで支えたい。

つながり強化宣言！　共栄火災

サイ吉
人々が気持ちよく毎日を暮らせるよう、
安心のチカラでそっと支えるサイ。
共栄火災のサイ吉です。

共栄火災海上保険株式会社　〒960-0231　福島県福島市飯坂町平野字三枚長 1-1　TEL.(024)554-3006　www.kyoeikasai.co.jp